

校名：新潟大学教育学部附属新潟中学校

所在地：〒951-8535 新潟市中央区西大畑町5214

電話番号：025-223-8341

記載日：平成28年5月18日

記載者：津野 庄一郎

記載者役職：副校長

校風、おおまかな特色について

当校の教育目標は、「生き方を求めて学ぶ生徒」である。先行き不透明な時代の中で、自ら、直面する問題と対峙し、仲間と共に、よりよい解決方法、「納得解」「最適解」を見出し、行動していくための資質や能力を育てることが、当校の教育目標の意味である。

現在、国立教育政策研究所の指定研究を受けており、「思考を広げ、深める中で、学ぶ喜びを実感・納得をしていく授業」というテーマのもと、「社会を生き抜く力」の基盤となる思考力や仲間と協働して学ぶ力を高める授業実践に取り組んでいる。また、学びの場を校内だけではなく、校外にも広く求め、様々な立場の方と交流したり、旅などの核となる活動は、アジアの歴史認識や経済交流などを視野に入れた「台湾の旅」をカリキュラムに位置付けたりしていくことを進めている。

生徒会は、「自主独立、協同」のスローガンを掲げ、生徒会憲章の三本柱である「自由」「信頼関係」「精一杯の努力」の目指す姿を求め、それぞれの行事が、生徒の手によって行われている。

卒業生の活躍状況について

- ① 追跡調査はしていない。
- ② 新潟附属同窓会・年度幹事会を開催して、各年度の代表幹事が名簿を元に動静を把握している。
- ③ 年度によって情報集約や横のつながりに格差が生じている。附属新潟中学校の主幹教諭（教務主任）が実質の事務を取り仕切っている。卒業生には本市・本県の政界・財界の中核で活躍しているものが少なくない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

- ① 追跡調査はしていない。
- ② 附属新潟学校同人会（小・中・特別支援）や中学校同人会を開催して、旧同人の動静を把握すると共に、名簿を更新し配付している。
- ③ 勤務経験者の多くが、公立校のミドルリーダー・管理職・行政等で本市・本県の教育を牽引している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

<当校の授業実践研究>

研究主題：思考の広がり深まりの中で、「学ぶ喜び」を実感・納得していく授業

公立校では、教科・領域等で取り組む「主体的・協働的な学び」であるアクティブ・ラーニングが求められている。当校の研究はその内容や方法をより具体的に示すとともに、公立校の授業改革の先導的な役割を果たす。

(1) 春の授業研究（紀要にまとめる授業）

<内容>

教科・領域等の授業において、生徒の思考や対話を活発に促すような課題解決の授業を行う。また、自分にとって有用だった思考操作、学習方略、情意・態度等を「思考のすべ」として取り出すようにメタ認知を促す。

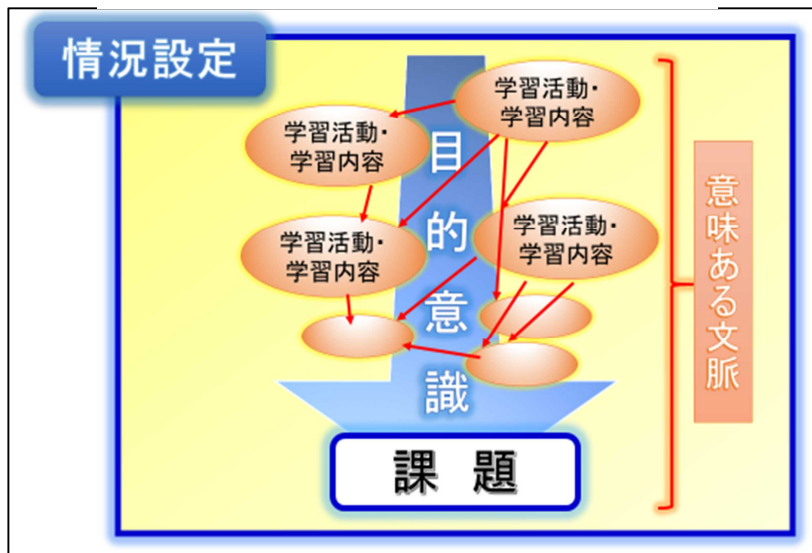
<方法>

- ① 「意味ある文脈での課題設定」「対話を促す工夫」「メタ認知を促す工夫」の重点から授業案をつくり、授業者の働き掛けにより、生徒の思考がどのように広がり深まったのかを検証する。

○「意味ある文脈での課題設定」

【「意味ある文脈での課題設定」のイメージ】

実際に生活や社会で直面するようリアルな状況に即して問題場面に至るような文脈づくりを大切にする。必要な技能や知識を習得させたり、事物や現象を提示したりすることで、様々な事実が意味ある文脈としてつながる中で、生徒の目的意識が醸成され、各教科等の本質的な学びに基づいた問いが生じるようにする。



○「対話を促す工夫」

仲間の考えを受けとめ、自分と仲間との考えの違いを比べたり関係付けたりして、考えや価値観などが質的に変容する際、われわれは「対話」が促されているととらえる。当校では、「対話」を次のように、定義し、対話を促す授業を行うこととする。

<当校の対話の定義>

1人1人の考えの違いを大切にし、多様な考えを比べ、関係付けながらよりよい解（見方・考え方、価値、行為など）を創り出すこと

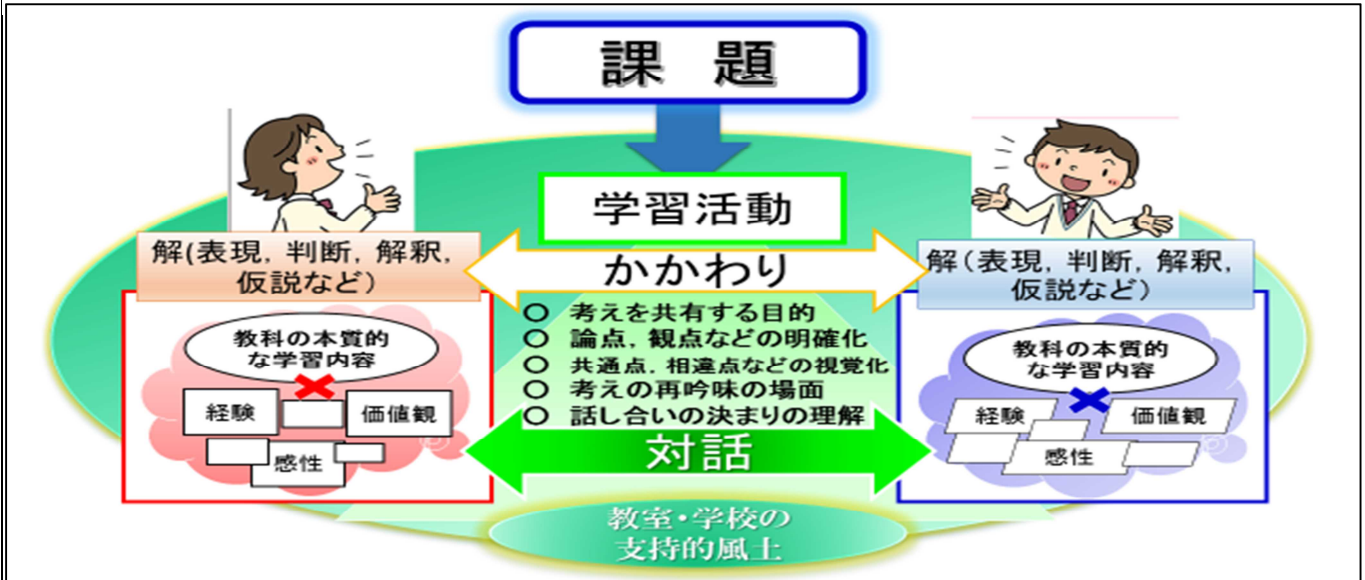
「対話」を促す要件を次のように考える。

<「対話」を促す要件>

- 課題の質
- 論点、論題、視点などが明確なこと
- 互いの考えの共通点、相違点が明確になるための視覚的な支援
- 考えの比較・関係付けの場面が何度も行われたり、まとめたものを再吟味したりする場面があること
- 話し合いの進め方や決まりの共有が図られている

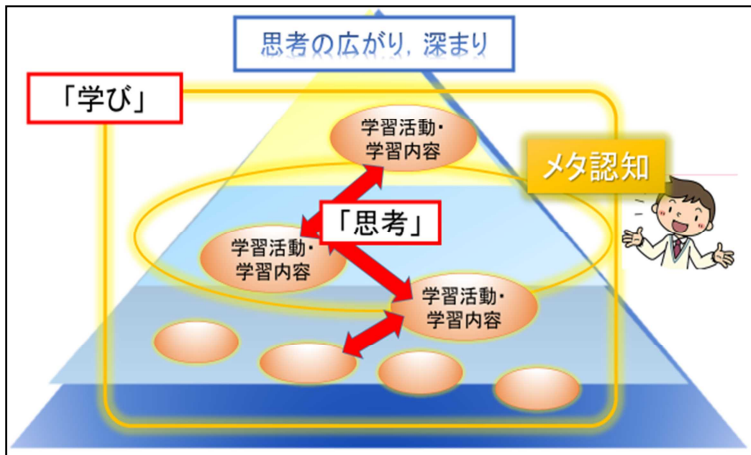
「対話」を促す授業によって、1人1人の考えの質的な変容が促され、他者との協働や様々な世界とのかかわりを通して、各教科・領域における「見方・考え方」「知識・技能」「態度」等がどのように育まれるか考える。

【「対話」のイメージ】



○ 「メタ認知を促す工夫」

【メタ認知のイメージ及び「すべカード」の実物】



「すべカード」各教科や日課とのつながりを見よう

教科	学習活動	思考	メタ認知
理科	① 観察したことをプリントにまとめる。 ② 観察の順序ややり方を考える。 ③ 観察の結果をグラフや表で表現する。 ④ 観察の結果を説明する。	① 観察の順序ややり方を考える。 ② 観察の結果をグラフや表で表現する。 ③ 観察の結果を説明する。	① 観察の順序ややり方を考える。 ② 観察の結果をグラフや表で表現する。 ③ 観察の結果を説明する。
社会	① 歴史の出来事や人物について調べる。 ② 歴史の出来事や人物について考える。 ③ 歴史の出来事や人物について表現する。	① 歴史の出来事や人物について調べる。 ② 歴史の出来事や人物について考える。 ③ 歴史の出来事や人物について表現する。	① 歴史の出来事や人物について調べる。 ② 歴史の出来事や人物について考える。 ③ 歴史の出来事や人物について表現する。
英語	① 英語の文法や単語を学ぶ。 ② 英語の文法や単語を練習する。 ③ 英語の文法や単語を表現する。	① 英語の文法や単語を学ぶ。 ② 英語の文法や単語を練習する。 ③ 英語の文法や単語を表現する。	① 英語の文法や単語を学ぶ。 ② 英語の文法や単語を練習する。 ③ 英語の文法や単語を表現する。
音楽	① 音楽の基礎知識を学ぶ。 ② 音楽の基礎知識を練習する。 ③ 音楽の基礎知識を表現する。	① 音楽の基礎知識を学ぶ。 ② 音楽の基礎知識を練習する。 ③ 音楽の基礎知識を表現する。	① 音楽の基礎知識を学ぶ。 ② 音楽の基礎知識を練習する。 ③ 音楽の基礎知識を表現する。
図画	① 図画の基礎知識を学ぶ。 ② 図画の基礎知識を練習する。 ③ 図画の基礎知識を表現する。	① 図画の基礎知識を学ぶ。 ② 図画の基礎知識を練習する。 ③ 図画の基礎知識を表現する。	① 図画の基礎知識を学ぶ。 ② 図画の基礎知識を練習する。 ③ 図画の基礎知識を表現する。

課題発見・解決の学習の終盤で、自らの思考を振り返って有用だと感じたものを「すべカード」に記入する。「すべカード」に書く内容は、①どのような時に思考したのか、②どのような思考が有効だったのか、③なぜ有効だったのか、について記入させ、各教科等における「思考のすべ」の自覚を促す。「すべカード」や各教科等におけるファイル、ポートフォリオなどに「思考のすべ」をまとめることで、質的に変容が図られる。

(2) 「総合的な学習の時間」－「生き方・学び方」の時間（当校独自の取り組み）

<内容>

「パーソナルポートフォリオ」を作成することを通して、生徒が各教科・領域での1つ1つの「学び」を俯瞰し、教科横断的な「思考のすべ」を見だし、自分の生き方に関係づけ、これからの将来に必要な資質・能力として実感することができる。

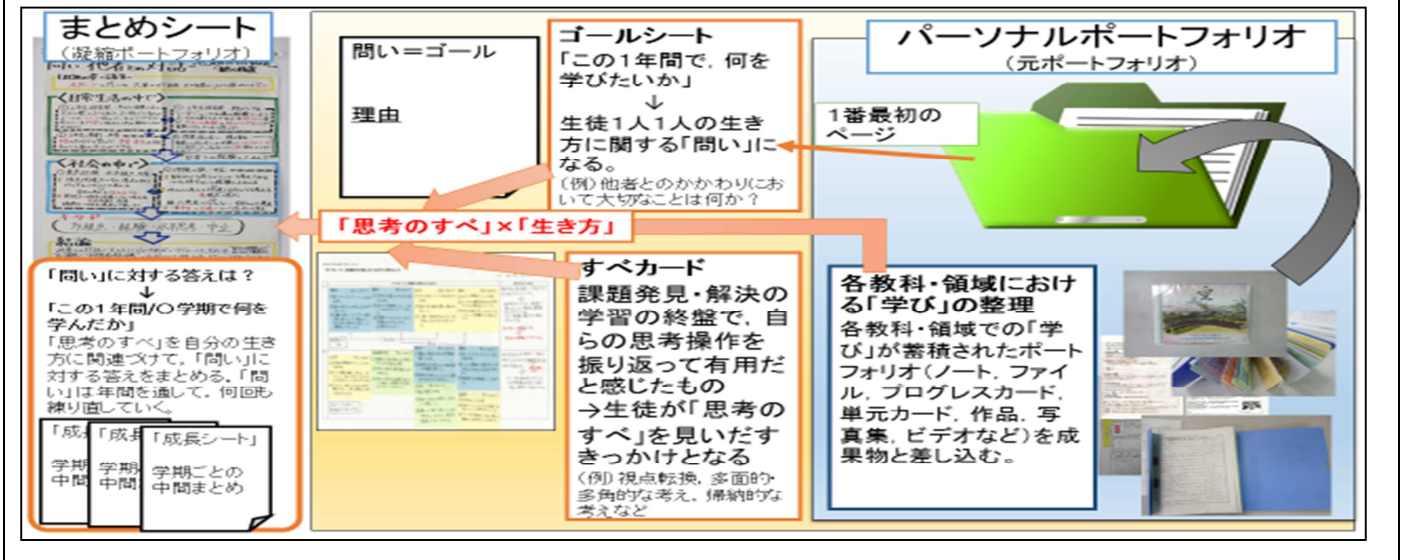
<方法>

各教科・領域において課題が解決した後に、自らの「学び」についてメタ認知を促す。自分にとって有用だった思考操作や学習方略などを「思考のすべ」として見だし、自分なりに形づけていくために、自分の成長を振り返られるようにする。自分の成長を振り返るとは、各教科・領域における「学び」と、自分のこれまでの生き方に関連づけることである。

そのために、「パーソナルポートフォリオ」（以下、PPF）を導入する。PPFは、生徒のこれまでの「学び」の

履歴を、自らの成長として一元化したものである。各教科・領域にとどまらず、自分の成長に関するものを PPF に入れ込んでいく。そして、蓄積された「学び」を振り返ったときに、見いだした「思考のすべ」が自分の成長に関係しており、自分のこれからの生き方に意味のあるものとして実感できるのである。つまり、生徒一人一人の中で形づくられた「思考のすべ」が、「何を知っているか」とどまらず、「それを使ってどのように社会・世界とかかわり、よりよい人生を送るか」という自分のより善い生き方を常に問い続け、自分の生き方を求めようとする資質・能力につながるのである。

【「生き方・学び方」の時間の構想イメージ】



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

地域のモデル校としての役割を積極的に果たしている。

伝統行事である「すなやま完歩大会」や「演劇発表会」、「思考」や「地域」「キャリア」をテーマにした特色ある教育課程の編成、思考の広がりや深まりの中で、学ぶ喜びを実感・納得する授業研究の推進により、義務教育校として着実な取組を行っている。また、新潟大学の附属校として、入門・観察・春秋の教育実習を通して、未来を担う教員養成の中核を担っている。保護者・地域の連携においては、父母教師会（PTA）とは別に、卒業生の保護者も巻き込んだ附属サポートボランティア（図書館ボランティアとグリーンボランティア）を組織して活動を展開している。さらに、同じ施設にある附属新潟小・中学校、附属特別支援学校では、「知を求め共生の心をもつ創造性豊かな子どもの育成」を共通の理念として、連携して特色ある教育活動を推進し、政令市新潟を含む新潟県教育の先導的な役割を果たしている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

当校の研究会では、毎年600名を超える方から来校いただき、実践研究に対する建設的なご意見等をお伺いしている。(平成25年：792名、平成26年：619名、平成27年：604名) また、教育実習校（入門・観察・春と秋）として、毎年140名を超える学生を受け入れて育て、数多くの教員を学校現場に輩出している。(平成25年：152名、平成26年：167名、平成27年：146名) 進学では、生徒の多くが新潟高校及び関東の私立等を目指して勉学に励んでおり、約半数以上の生徒がその目標を達成している。(新潟高校及び関東の私立等の進学率は、平成25年：70%、平成26年度：54%、平成27年度：60%) である。当校の入学選考検査の受検倍率は、常に2倍を超えており、地域・保護者のニーズも少なくない。(平成25年度：2.88倍、平成26年度：2.21倍、平成27年度：2.26倍)

今後とも価値のある教育活動を展開し、積極的に発信することを通して、附属学校の存在意義をより確固たるものにしていきたい。